

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2372202065
法人名	真 株式会社
事業所名	グループホーム まこと
訪問調査日	平成20年12月2日
評価確定日	平成21年1月6日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372202065		
法人名	真 株式会社		
事業所名	グループホーム まこと		
所在地	一宮市佐千原字郷前21番地 (電話) 0586-25-0380		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成21年1月6日

## 【情報提供票より】(平成20年11月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年9月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 4人, 非常勤 8人, 常勤換算 9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有 (100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年11月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	79 歳	最高	95 歳
協力医療機関名	大山医院・ハセベ歯科・尾洲病院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型のホームとしての役割を、全職員が理解し地域とのつながり、かかわりを大切に気軽に立ち寄ってもらえるホームを目指している。地域坂手神社の掃除には入居者、職員が参加し顔なじみの関係ができています。職員同士和気あいあいと仲が良く、入居者一人ひとりがその人らしさを大切にゆとりの介護ができるように、意見交換を持ちながら日々介護を行っている。隣接の畑での野菜作りには入居者が指導者となり職員と野菜を育て収穫を楽しんでいる。災害時には地域の方の役に立ちたいと、ホームが避難場所として利用してもらえるように備蓄品などを確保し前向きに検討している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価についての取り組みは、法人内人事に動きがあり、施設長、管理者、職員が新しく就任しており改善課題に取り組むまでには至っていないが、前向きに検討していく姿勢がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回自己評価がはじめての職員が多く、管理者から説明があったが、自分の思いを文章化することの難しさを感じている。全項目、目を通すことで日頃のケアを見つめ直す機会にもなり、気づきが再確認できたという声が聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2カ月に1回、出席者に葉栗連区民生委員、町会長、市役所高年福祉課職員、地域包括支援センター2名、家族代表、職員の参加のもと開催している。ホームの現状や活動状況の報告、事故報告があり、事故に関して地域包括支援センターから対応の仕方を学ぶこともある。次回救命講習会を町内会合同参加の企画を検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情、意見箱の設置はないが、訪問時に意見などをいただくことがある。現状では苦情を聞くことはないが、些細なことにも耳を傾ける姿勢で、これからも入居者家族と交流を持つことで情報を共有し介護サービスに反映させる取り組みに繋げていきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、回覧板が回ってきた時は、次のお宅に入居者と一緒に届けに行ったり、職員と入居者がペアになり月1回神社の清掃に参加している。夏休みに職場体験として中学生3名の参加があり、ホームで介護について学んだ。葉栗連区敬老会に参加し、歌謡ショーを楽しみ、地域の秋祭りには入居者5名、職員3名参加し、みたらし団子を食べ楽しんだ。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、「認知症介護を生活の主体とし、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう援助を行う。また能力を最大限に活用できるような環境を提供します」としている。		地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を現在全職員で考案中である。平成21年度、2階部分に1ユニット開設予定があり、地域密着型サービスの内容を取り入れた理念を検討している。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念が掲示してあるが、職員の異動があったため理念の共有までには至っていない。理念に基づいた介護が実施されているのか管理者は職員の介護に目を配り、方向性がずれていると思う時は、個別に話をする機会を設け理念に立ち戻るように指導している。		法人内の人事に動きがあり、施設長はじめ、管理者、職員の多数が新しく就任した。理念を全職員が共有できるように機会があるごとに唱和し、理念をよく理解した介護を期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域との付き合いの大切さを大事に考えている。回覧板が回ってきた時は、次のお宅に入居者と一緒に届けに行ったり、入居者と職員がペアを組み月1回神社の清掃に参加することで顔なじみの関係ができています。葉栗連区敬老会に参加することで、歌謡ショーを楽しみ、地域の秋祭りに入居者5名、職員3名が参加し、みたらし団子を食し楽しんだ。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回始めて外部評価に取り組む職員が多く、管理者が内容説明を行なった。職員には自分を見つめ直す機会になればと、日頃の介護を振り返りながら記入してもらった。項目に対し理解が難しかったという意見があったが、外部評価全項目に目を通すことでケアの気づきが再確認できたという意見が職員からあった。		前回の改善項目について職員の多数が新任のため評価結果の把握までには至っていない。今回の改善項目について全職員で、できることから取り組むことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回、出席者に葉栗連区民生委員、町会長、家族、市役所高年福祉課職員、地域包括支援センター職員2名、ホーム職員の参加のもと開催している。</p> <p>ホームの現状、活動状況の報告や事故報告があり、事故報告に関して地域包括支援センターの方から対応の仕方を学ぶこともある。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>新しく管理者が就任し、定期的に市担当者と関わる時間を有することが難しい現状である。市からの問い合わせの電話では、生活保護の方の受け入れ状況を尋ねられることが多い。施設長が、市役所、社会福祉協議会等の窓口となり、ホームの状況報告や市からの情報を取り入れることでサービスの質の向上に取り組んでいきたいと考えている。</p>		<p>今後、行政窓口への書類など提出時に関わりを深め、連絡を密に取り、助言を受けながらサービスの質の向上に努めていくことを期待したい。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者家族には、月に1回利用料の支払いに訪問していただいております。管理者が一人ひとりの生活状況、健康状態等を口頭で伝えている。小遣いとして1万円弱預り、金額が少なくなってきた時に補充をお願いし、出納帳確認をいただいている。必要に応じ電話にて報告を行っているが、訪問時に口頭で伝えることが多く、家族との関係を大事にしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情、意見箱の設置はないが、訪問時に意見などをいただくことがある。現状では苦情を聞くことはなく、些細なことにも耳を傾ける姿勢で、これからも入居者家族と交流を持つことで情報を共有し介護サービスに反映させる取り組みに繋がりたいと考えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職について入居者から聞かれた時は、入居者が理解できる範囲内で説明を行い、ダメージがないよう配慮している。管理者は離職しようと考えている職員は何か前兆があるはずと目配りに心がけ、個別に相談や話し合いの場を設け対応していきたいと考えている。入居者家族には異動、離職による人事について訪問時に報告を行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては案内を回覧することで情報を伝えている。外部研修の希望を募ったり、研修レベルに合わせて必要だと思う職員に声かけを行い、勤務の一環として扱い、後日研修報告提出を義務としている。内部研修は現在行っていない。新しい職員を採用時には、管理者が一通り説明を行ない、当日勤務している職員が指導者となり1~2カ月をめぐりに育成を実施している。		新規採用職員が多く、入居者の情報を共有することで、どの職員が介護を行った場合でも同水準の介護ができる体制づくりを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮市介護サービス事業者連絡会には参加している。近隣グループホーム開催のバザーに毎年入居者、職員が参加し顔なじみになってはいるが、職員同士の交流の場までには至っていない。管理者は、これからは交流の機会を増やし馴染みの関係づくりを考えており、近隣のグループホームとのネットワーク作りを検討中である。		職員の入れ代わりがあったが、現在は安定している状態である。他のグループホームや介護施設とネットワークをつくり、勉強会、情報交換、職員同士の交流の場になることを期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の自宅を訪問し、説明を行ない納得いただいた入居というケースは少なく、病院の相談員からの紹介で、管理者、介護支援専門員が出向き、入居内容を説明する。部屋に空きがある場合は、入居体験をしていただくことで、生活記録を取り、職員の意見を聞きながら、少しでも本人がグループホームに馴染み、自然な形で入居となるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	近隣神社の掃除に職員は交互に参加しているので、神社のどの部分が掃除担当になっているのか入居者に教わりながら掃除を共に行っている。自室の掃除は入居者と職員で一緒に行ない、洗濯物を干したり、たたんだり、食事下膳の役割分担は入居者の間で自然にできている。天気の良い日には皆で駐車場テントの下でお茶やおしゃべりを楽しんだりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意向を日々の会話の中から聞き取るように傾聴に徹している。入居前の生活、得意なこと、趣味、できることを家族に尋ねたり、入居者の日頃の行動や表情から汲み取りができるように、一人ひとりの意向を確かめながら職員が支援できるように心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は担当制をとっている。モニタリング、アセスメント、日々の介護記録等を参照して計画作成担当者が介護計画を作成し、職員や家族に提示する。サービス担当者会議で職員一人ひとりが感じとった入居者の思いや現場で感じていること、現状や家族の思い、要望等を出し合って意見交換し入居者の意向を反映した介護計画を決定する。できあがった介護計画を毎月開催されるケア会議で職員に周知し、家族には事前に依頼し面会時に説明し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3カ月毎に介護計画の見直しを行なっている。入居時にたてた介護計画は1カ月後に見直し、病院から退院後は期間内でも介護計画を見直し現状に即したものになるようにしている。急激な変化があった場合も直ぐに見直しを行い、病状の変化などで主治医より新たな対応の指示があれば必要に応じて期間内でも臨機応変に計画の変更を行い、家族や全職員に説明している。モニタリングシートは本人や家族の満足度やサービスの実施状況、目標達成度、今後の対応、総括と詳しく現状分析がされ、新たな変化が見られない場合でも見直しの重要性を理解し、何か小さな変化でも気づき、見つける努力をして介護計画に盛り込み継続している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームの介護体制構築を最優先と考え、今は医療連携体制加算はとっていない。入居時にホームのできる支援内容を説明し、入院時には情報提供を行い居室の確保は2カ月を目安としている。長期化する場合にはできるだけ意向に添えるよう誠意をもって対応し退所や他のサービスの利用などの相談に応じている。</p>		<p>本人、家族の状況に応じて、通院、送迎など必要な支援は柔軟に対応し、入居者にとって負担となるような受診や入院の回避、早期退院への支援等を期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<b>かかりつけ医の受診支援</b>  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関大山医院は外来受診が主で月1回定期往診がある。特に主治医の変更はせず家族の通院付き添いのもと入居前の関係を維持する方もあり、受診前後には情報提供や報告を受けている。眼科等の他科や一部認知症専門医の外来受診も家族が通院の協力をしている。今後家族よりホームへ受診の付き添いの依頼があれば基準を明文化して対応していきたいと考えている。		
19	47	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後の入居者の高齢化や体力の低下等を考えると「重度化した場合における対応にかかわる指針」の必要性は感じているがまだ作成までには至っていない。看取り、終末期ケアはホームでできること、できないことを明らかにして家族の理解を得た上で、今後の変化に備えて主治医や看護師と連携しながら家族と繰り返し話し合い、段階に応じた方針を全員で共有していきたいと考えている。また、職員の教育研修の必要性も感じている。		重度化や終末期に向けたホームの方針を明文化されることを期待したい。入居時にきちんと家族に説明し、早い段階から家族の意向を踏まえて関係者間で話し合い全体の方針の統一を図られたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<b>プライバシーの確保の徹底</b>  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の扱いについては入居時に説明し同意書をとっている。全職員が入居者の立場に立った対応を心がけ入浴や排泄介助の際も誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。内容により入居者への情報伝達やコミュニケーションは居室で対応し、家族等の面会も基本は居室でお願いしている。記録等書類の管理はスタッフルームで行われている。		
21	52	<b>日々のその人らしい暮らし</b>  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の状況に合わせた支援ができるように、自由に過ごしていただいている。駐車場南側にある畑で色々な野菜作りを楽しむ入居者や、玄関に咲いている花の鉢植えは入居者が自分の仕事と思い水やりをしている。たばこを吸われる方には、場所や本数を決めてもらい目の届く位置から職員は見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は能力にあわせ職員と食材を切ったり、盛り付け等の手伝いを行っている。月～金は宅配メニューが主だが週末は入居者の好みを取り入れた自由献立とし買い物にも出かけている。入居者の状態に合わせてとみ付けやきざみ食の提供をし、職員も一緒に和やかに食事をしている。現在アルコールを飲まれる方はいない。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、水、金の週3回ぐらいのペースで入浴している。午前、午後の順番はその都度入居者の希望や予定、体調に合わせて対応し、皮膚の乾燥を防ぐため入浴剤を入れたり、ゆず湯を楽しんだりしている。拒否される方にはタイミングを見ながら誘導し、本人の状態をみて中止とすることもあがるが、清拭や足浴に変更して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントを基に個々の力や興味、得意分野を活かし自分の意思で暮らせるよう支援している。食後の後片付けは各々が役割分担してスムーズに行われている。玄関ポーチのベンチ、駐車場に設置のテントで外気浴やおやつタイムをしたり、畑で季節の野菜を育てたり、みんなでドライブ、個別で喫茶店へ出かけたりしている。化粧をしたり有資格の職員によるホーム内での理美容(カット、パーマ、カラー)があり、おしゃれも楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前の道路は交通量が多く、近くの公園も休憩場所がないので散歩は充分にできていない。職員の買出し時に同行したり、季節に応じて五感刺激の機会として花見、紅葉狩り、初詣等を計画している。五条川、江南フラワーパーク、桃太郎神社等へのドライブ、外食等体調を考慮しながらホームに閉じこもらない生活を支援している。家族との外出を楽しんだり、正月に外泊する方もあがる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、夜間を除き基本的に日中鍵をかけず自由に入出りできる。玄関、トイレ、南非常口には音の違うセンサーを設置しているが、職員はそれに頼らず目視で入居者の出入り、動きを察知するようにしている。以前は精神面で不穏や不安定だったり、外出希望の強い方もあったが今は落ちついてきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>12月25日に避難訓練を予定しており、入居者の避難誘導、消火訓練等を実施する。町内にも呼びかけホームで救急救命の講習会も実施したいと考えている。防火管理者は施設長で消火器は3ヶ所に設置しており、2階改築の際スプリンクラーの工事も予定している。管理者は“ホームを地域の避難場所に”と提案したい意向である。備蓄は期限切れとなり、現在点検中である。</p>		<p>運営推進会議の場を利用して地域の方にも呼びかけ協力を得ながら避難訓練を定期的実施されることに期待したい。また、備蓄の整備も早急に実施されたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は1日1,300～1,400 kcal程度で摂取量は日々記録している。水分は食事を除いて最低1 摂取を目安とし外出、入浴後等こまめに補給し、特に夏場は脱水症に注意している。毎月1回の体重測定で前月との増減値を把握している。糖尿病の方には小さめの食器への盛り付けの工夫でさりげなく対応し、便秘には水分補給、テレビの体操、廊下での歩行運動に心がけ、薬の処方是最小限に抑えている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関ポーチのベンチでは外気浴等気分転換ができ、正面の階段は段差が低く安心して出入りできる。共用スペースは広く、ゆったりしたソファ、テレビが置かれ、居心地よく生活できるよう必要に応じて配置転換している。床は段差がなく手すりも完備され、壁には季節に合った職員と入居者での共同作品やクリスマスの飾り物、行事の写真があり、家庭的な雰囲気が感じられる。冬場は廊下にガスファンヒーターを置いて温湿度管理にも気配りしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はエアコンとベッドの他タンスが常設されている。火気を伴う危険物や刃物類、大きすぎる物、ガラス製品、高価な物、ペット等の生き物の持ち込みは控えてもらっているが、使い慣れた馴染みの物をなるべく持ち込んで居心地よく過ごして欲しいと考えており仏壇は検討中である。家具類等を安全に気遣いしながら使いやすく配置し壁にはホームからのお誕生日プレゼントの写真入りの寄せ書き、入り口にはマカロニで作ったクリスマスリースが飾ってある。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。